

## 🇨🇦 カナダの金融市場動向 Weekly Report

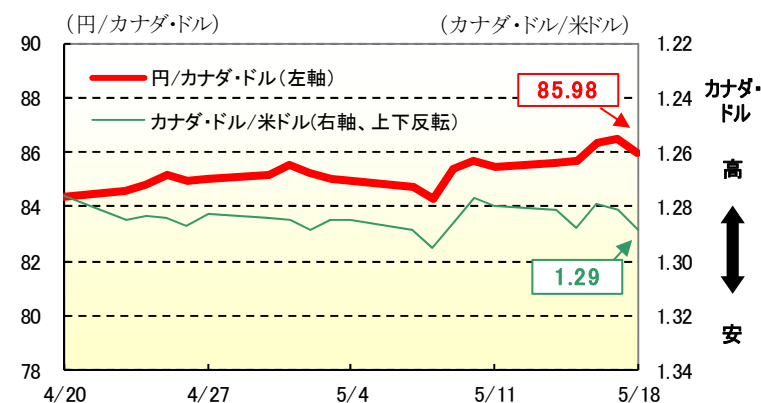
【2018年5月12日～2018年5月18日の推移】

### 【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円やカナダ5年国債利回りは上昇しました。

先週は、米国金利が上昇したことや株価、原油価格が堅調に推移したことなどを受けて、カナダの金利やカナダ・ドル円は上昇しました。一方、発表されたCPI(消費者物価指数)が前年比で小幅に予想を下回ったことや、小売売上高が自動車を除くと予想外に前月比で減少したことなどが、金利低下やカナダ・ドルの下落圧力となりました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年4月20日～2018年5月18日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

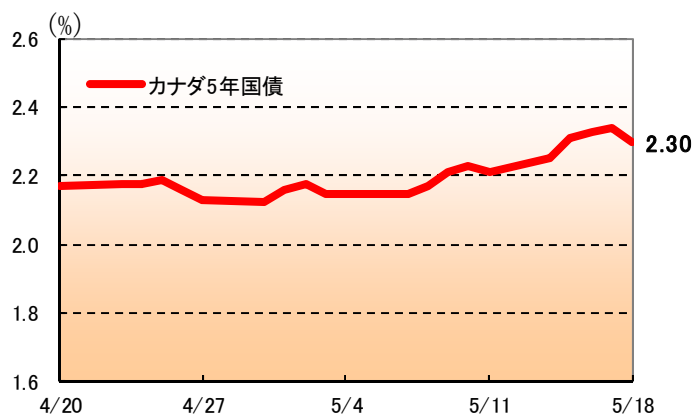
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 【2】今週の見通し

今週、カナダや米国では特段重要な経済指標の発表はありません。ただし、米国で複数の連銀総裁による講演があることから、その内容が市場の利上げ期待を高めるものとなれば、米国金利が上昇し、それに連れてカナダの金利上昇圧力が高まりやすいとみています。

また、NAFTA(北米自由貿易協定)再交渉について、5月17日(現地、以下同様)までに米国議会にNAFTAの修正案が示されなければ、新協定の発効に必要な議会承認を年内に得ることが難しくなるといわれていたことから、先週何らかの進展があると期待されていましたが、交渉は合意に至りませんでした。カナダのトルドー首相は17日に早期の合意成立に楽観的な見方を示しましたが、米通商代表部のライトハイザー代表は、合意するには程遠いと認識を示しました。そのため、今後もNAFTA再交渉に対する不透明感は払拭されず、このことがカナダ金利やカナダ・ドルの上昇圧力を抑える要因になるとみています。

【カナダ 金利推移】 (2018年4月20日～2018年5月18日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

#### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>